



和光市ふるさとガイドマップ

～歴史と文化を訪ねて～



和光市



和光市
生涯学習マスコット
「なびい」

和光市のうつりかわり

和光市は武蔵野台地の北東部に位置し、北に荒川、東に白子川が流れ、太古の時代から人々の住み良い地域でありました。これまでの発掘調査により、21,000～25,000年ほど前の旧石器時代から人々が住んでいたことがわかっています。

奈良・平安時代には、新羅から帰化人の移住があり、武蔵国の一部に新羅郡が置かれました。新倉の午王山に新羅王が本居を構えたという話も伝えられています。

鎌倉時代になると、武蔵武士が勃興します。新倉・下新倉の領主で妙典寺の開基とされる墨田五郎時光もその一人です。

安土桃山時代の天正15(1587)年、後北条氏によって白子に宿駅と市場(楽市)を開設することが許されました。

天正18(1590)年、後北条氏に変わって徳川家康が関東一円を支配するようになり、上新座村は江戸町奉行の板倉氏の領地となり、その後天領となりました。下新座村は川越城主酒井氏の領地、白子村は伊賀衆の給地になりました。

江戸時代になると白子宿は大江戸と小江戸(川越)を結ぶ宿場として繁栄し始めます。また、白子の湧水は関東随一の水質として有名になり、吹上観音が地誌「江戸名所図会」(P14参照)で紹介されて、多くの参詣者が訪れました。また、「ささら獅子舞」「白子囃子」もこの時代に生まれました。

明治22(1889)年、町村制施行で白子、下新倉が合併して白子村に、上新倉は新倉村と名を改めました。

大正3(1914)年になって東武鉄道が開通しましたが、当時の和光市(新倉村)には駅が設置されず、最寄駅は成増駅か膝折駅(現、朝霞駅)でした。

昭和9(1934)年になり、新倉駅(現、和光市駅)が新設されました。同18(1943)年には白子村と新倉村が合併し大和町が誕生します。以来、東京に野菜を供給する近郊農村地として発展しました。一方、太平洋戦争の頃から徐々に工場が建設され、戦後は大会社などの進出が相次ぎました。

昭和30(1955)年代以降から、西大和団地、諏訪原団地、CIハイツなどが建設され人口が急増していきます。

昭和45(1970)年10月、市制施行によって和光市が誕生しました。その後、昭和62(1987)年には地下鉄有楽町線が和光市駅に乗り入れ、平成になってからは外環自動車道が開通するなど、現在も発展を続けています。

和光市地名の由来



<和光市紋章>

<新倉・白子>

このあたりの地名は奈良時代になって武蔵野国新羅郡が置かれたときに始まります。新羅郡は平安時代になると新座郡と書かれるようになり、その頃作られた辞書の「和名類聚抄」には新座郡は「爾比久良」とよまれています。江戸時代の初めには、上新座村、下新座村、白子村の3ヶ村があり、17世紀から18世紀にかけ、白子村は、上白子村と下白子村となり、上・下新座村は上・下新倉村と書くようになったと考えられます。

なお、白子の地名の起こりは、地福寺にまつわる言い伝えの白衣童子から生まれたという話が残っています。

<和光市>

市制施行に伴い、『大和』の市名はすでに他にあったので、大和町民から公募された中から選定されて、和光市が誕生しました。大和町の「和」をとり、平和、栄光、前進を象徴し、大和町が明るく住みよい街に発展するようにという願いがこめられています。

歳時記

“行ってみよう、こんなとき、こんなところ”

と き	場 所	催 し 物	内 容
1 月 元 旦	新倉氷川八幡神社	だ る ま 市	年があけるとともに市がたちます。
7 月 26 日	諏 訪 神 社	諏 訪 神 社 祭 り	白子囃子が奉納されます。
10月第1日曜日	熊 野 神 社	熊 野 神 社 祭 り	御輿が白子宿を中心に練り歩きます。
10 月 中 旬	新倉氷川八幡神社	新倉ふるさと祭り	子ども御輿や山車がでます。
10 月 中 旬	下新倉氷川八幡神社	秋 祭 り	子ども御輿や山車がでます。ささら獅子舞の奉納もあります。
12 月 7 日	熊 野 神 社	熊 手 市	毎年、市がたちます。

歴史年表

時代	西 暦	年号・時代	市に関する事項	地区・県・国に関する事項
旧石器時代	BC 10000	旧石器	柿の木坂遺跡。仏ノ木坂遺跡。	
縄文時代	BC 6000 BC 5000 BC 4000 BC 3000 BC 2000 BC 1000	早期 前期 中期 後期 晩期	白子宿上遺跡。 市場峠・市場上遺跡、白子宿上遺跡、義名山遺跡 白子宿上遺跡、吹上遺跡、市場峠・市場上遺跡 吹上遺跡、妙蓮寺遺跡、城山遺跡 白子宿上遺跡、丸山台遺跡、義名山遺跡 吹上遺跡	富士見打越遺跡 新座内畑遺跡、富士見水子貝塚 朝霞泉水山遺跡、所沢膳棚遺跡 川口新郷遺跡 川口石神貝塚
弥生時代	BC 300 300		午王山遺跡に住居が建ちはじめる。 午王山遺跡、花ノ木遺跡に環濠が掘られる。 城山遺跡 荒川流域の自然堤防上に榎堂遺跡成立	板橋成増一丁目遺跡 川越霞ヶ関遺跡
古墳時代	500 687 690 700		7C末～8C初 吹上原横穴墓群	5C末頃朝霞終塚古墳 新羅帰化人22人を武蔵国におく。 新羅帰化人12人を武蔵国におく。
奈良時代	716 729 758 760	霊亀2 天平元 天平宝字2 4	天平年中に行基菩薩、吹上近くの赤池の傍に堂を建て、観音立像を安置したと縁起に言う。 帰化の新羅人74人を武蔵国に移し新羅郡をおく。新倉、白子あたりがその中心地とみられる。 新羅帰化人131人を武蔵国におく。	武蔵国に高麗郡をおく。
平安時代	870 927 987 1087 1091	貞観12 延長5 永延元 寛治元 5	新羅人5人を新羅郡におく。 この頃郡名が新羅郡より、新座郡に改められる。新座は「にいくら」と唱える。後世、座は倉と混用される。 この頃地福寺創建と伝えられる。 伝説にいう、新羅三郎義光、奥州下向の途中、吹上正覚院に於いて八幡大神をまつり兄義家の戦勝を祈願。 下新倉八幡神社（水川社に合祀）創建と伝えられる。	源義家、奥州平定、後三年の役終る。
鎌倉時代	1192 1271 1278 1317 1325	建久3 文永8 弘安元 文保元 正中2	この頃、新倉郷あたりの領主、墨田五郎時光。 この頃、妙典寺創建される。開基墨田五郎時光、剃髪して日徳と号す。 この頃、吉良亀松、新倉郷（高七百貫文）を領知する。 日徳（墨田五郎時光）没す。	源頼朝、鎌倉幕府を開く。 幕府、日蓮を佐渡に流す。
南北朝時代	1333 1380 1488 1501 1525 1534 1551 1559 1571 1572	元弘3 康暦2 長享2 文亀元 大永5 天文3 20 永禄2 元亀2 3	この頃、東明寺創建と伝えられる。 万里集九、越生の太田道真のもとへの途中、白子の里を過ぎる。 金泉寺本尊阿弥陀如来像、修理。 白子原合戦において櫛間九郎討ち死にという。 この頃、熊野神社、熊野信仰の中心拠点として発展。 新倉本多家妙金禅尼板碑（最も新しいもの） 吹上観音堂鰐口、河村弥二郎が寄進する、 ささら獅子舞がこの頃できたという言われがある。	鎌倉幕府ほろぶ。 小田原衆所領役帳を作成
室町時代		戦国時代		



縄文時代深鉢形土器（丸山台遺跡）

今から12,000年ほど前から2,200年前くらいまでつくられ、主に縄目の模様が付けられた土器。そのほとんどは深鉢形で貝や木の実などの煮炊きに使用された。



市場峠・市場上遺跡（貝塚）

縄文時代前期は、温暖であったため海面が現在より高く、白子川の谷間は海であった。貝を採取し、食べた後の貝殻を捨てた場所が貝塚である。

ヒスイ大珠（ひすいたいしゅ）



縄文時代の垂飾品（ペンダント）、原石は、新潟県堀川流域で産出される。交流・交易により渡ってきたと思われる。越後山遺跡の縄文時代の土坑墓から出土した。



弥生時代壺形土器（吹上遺跡）

紀元前3世紀～紀元3世紀ごろまでの弥生時代に作られ、縄文土器より器厚が薄い。貯蔵用の壺、煮沸用の甕（カメ）など用途により器形に違いが現れる。



古墳時代須恵器壺

古墳時代から日本で生産された陶質の土器。朝鮮から渡来した技術により、登窯で還元炎により焼成されており、灰色で硬く焼き締まっている。吹上原横穴墓から副葬品として出土した。



板碑（いたび）

石で作られた供養塔で、梵字・供養者名・年月日などが刻まれている。鎌倉時代から室町時代に全国的に見られるが、関東では秩父や長瀨から産出される緑泥片岩という青みがかった石が使われている。午王山遺跡では、多量の板碑がまとまって発掘され、指定文化財となっている。

時代	西 暦	年号・時代	市に関する事項	地区・県・国に関する事項
安土・桃山時代	1587	天正15	後北条氏により、白子に宿が設置。楽市開催許可される。	秀吉九州平定
	1590	18	徳川家康江戸入府。上新座村は板倉勝重の領地となる。下新座村は酒井重忠の領地となる。	北条氏直、秀吉に降る。秀吉、全国平定。
	1591	19	白子村は伊賀衆の給地となる。	
江戸時代	1603	慶長8		徳川家康、江戸幕府を開く。
	1631	寛永8	上新座村検地。	
	1634	11	下新座村は慶長の頃、酒井重忠より、弟忠利に代わり、さらにその子忠勝に伝わり、この年弟酒井壱岐守忠重に与えられ、幕末までその知行地となる。	
	1636	13	この頃、壱鑑寺が建立される。	寛永通宝鑄造。通用が始まる。
	1639	16	白子村検地	松平信綱、川越領主となる。
	1641	18	金泉寺本堂改築する。	
	1644	正保元	下新座村畑方検地 白子村、代官野村彦太夫、支配する。	幕府、諸国郷村高帳、国絵図を作らせる。
	1647	4		松平信綱、新河岸川舟運を本格化
	1650	慶安3	下新座村田方検地	
	1655	明暦元		野火止用水掘削される。
	1663	寛文3	長照寺地藏菩薩石像造立(市内最古)	
	1673	13	下新座浅久保坂上馬頭観世音(市内最古)	
	1683	天和3	長照寺庚申塔(市内最古)	
	1716	享保元	上・下新座、白子村が御鷹場となる。	幕府、関東各地に御鷹場指定
	1726	11	広沢原周辺17ヶ村、広沢原閉塞に着手	
	1731	16	雑談袋新田検地行われる。	
	1732	17	広沢原新田検地行われる。	
	1776	安永5	吹上観音堂火災、本堂鐘楼焼失	
	1781	天明元	吹上観音堂再建	
	1804	文化元	この頃、うけら庵に太田南畝等江戸文人の来遊あり	
	1830	天保元		新編武蔵風土記稿完成
	1833	4	大飢饉のため、夫食と種籾を幕府から借り入れる。	
	1849	嘉永2	吹上百庚申建立	
明治時代	1868	明治元	上・下新倉村、白子村は御料知県事松村忠四郎の支配となる。	旧幕府領を直轄とする。江戸城を皇居に
	1869	2	上・下新倉村、白子村が品川県の所管となる。	
	1871	4	上・下新倉村、白子村が入間県の管轄となる。	廃藩置県、中山道乗合馬車運行
	1872	5	白子郵便局が設置される。	学制発布、太陽暦採用を布告
	1873	6	上・下新倉村、白子村が熊谷県の管轄となる。	
	1874	7	新倉学校開校。上・下新倉村合同で設置 白子学校開校	埼玉県師範学校開設
	1884	17	上・下新倉村・白子村、白子村連合戸長役場の所屬となる。	
	1886	19	3村連合立による尋常小学校東輝学校が開校。	秩父事件起こる。
	1889	22	町村制実施により、白子村・下新倉村は合併し白子村となり、上 新倉村は独立して新倉村となる。	
			東輝学校より分離して新倉学校が開校。	
	1894	27	高等科を設置し、東輝尋常高等小学校となる。	
	1896	29	郡制施行により、新座郡は統合され、北足立郡となる。	
	1903	36	新倉学校漆台に校舎新築	
	1906	39	高等科を設置し、新倉尋常高等小学校となる。	
	1908	41	東輝学校は白子尋常高等小学校と改称する。	
	1909	42	白子尋常高等小学校、白子に校舎新築	
	1910	43	新河岸川、荒川氾濫	埼玉県で大洪水発生



五輪塔(壱鑑寺境内)

江戸時代下新倉村の領主、旗本の酒井壱岐守忠重の墓である。五輪塔は、亡くなった人の供養や墓として作られたもので、下から地、水、火、風、空を表し、これらが宇宙をつくりあげている要素としている。中央が忠重、右は忠重の夫人、左は二代忠興の夫人のものと思われる。



下新倉絵図 安政6年(1859)



絵馬(東明禅寺)



絵馬(妙典寺)

絵馬 様々な願い事やお礼のために寺や神社に奉納する馬の絵。

東明禅寺の絵馬は、下新倉の講中23人が伊勢参りを無事すませたお礼として奉納したものである。瑞雲(めでたい印の雲)で三つに分けられ、二見ヶ浦、内宮、外宮と伊勢神社の景色を描いている。嘉永5年(1852)に吹上観音堂に奉納された。妙典寺の絵馬は、文政4年(1821)に向新田油屋勘次郎という人が娘およしの虫の病が治ったお礼に妙典寺に奉納した。妙典寺の子安の池と、日蓮上人の楊枝が育ったという柳が描かれている。



鯨口(東明禅寺蔵)

寺の軒下につるす金鼓、参拝者が拝礼の時に綱をゆすり打ち鳴らすものである。この鯨口には、文字が刻まれており、元龜2年(1571)に河村弥二郎という人が東明禅寺に寄進したことがかかれている。河村弥二郎は後北条氏の家臣で、今の下新倉あたりに領地を持っていた人である。

時代	西 暦	年号・時代	市に関する事項	地区・県・国に関する事項
大正時代	1914	大 正 3	東上線(池袋～川越)汽車開通	関東大震災 郡役所廃止
	1920	9	この頃電灯つく。	
	1922	11	駅前通り(浦和新倉道)第一期(川越街道～柿ノ木坂)完成	
	1923	12	白子郵便局に電話開局される。	
	1926	15	浦和新倉道第二期(柿ノ木坂～下井戸)完成	
昭和時代	1929	昭 和 4	東上線(池袋～川越)電化	太平洋戦争(～45)
	1934	9	新倉駅(現・和光市駅)開設、川越街道舗装	
	1941	16	白子陸軍病院(現・埼玉病院)開設	
	1943	18	白子村、新倉村が合併し、大和町となる。	
	1947	22	大和中学校開校	
	1948	23	大和音頭発表会開催	六三制実施
	1952	27	第一回成人式、大和中学校において挙行。 大和町教育委員会発足	
	1955	30	中央公民館開館	
	1957	32	広報「やまと」創刊	
	1958	33	文化財保護委員会発足	
	1959	34	大和町上水道給水開始	朝霞電報電話局開局 オリンピック東京大会開催
	1961	36	大和章制定。川越バイパス(国道254号)開通	
	1963	38	総合庁舎落成、町制施行20周年記念式典挙行	
	1964	39	荒川新笹目大橋完成、オリンピック道路開通 西大和団地入居	
	1966	41	消防本部及び消防署設置	
	1970	45	市制施行により、和光市となる。	
	1972	47	埼玉県立和光高等学校開校	
	1978	53	和光市史編さん開始(～88)	
	1983	58	南公民館、図書館開館。本町小学校開校	
	1987	62	有楽町線開通	
平成時代	1990	平 成 2	市制20周年記念式典挙行	阪神淡路大震災
	1992	4	外環自動車道(三郷～和光)開通	
	1993	5	市役所業務を新庁舎にて開始	
	1994	6	外環自動車道(和光～大泉)開通	
	1995	7		
	1996	8	都市対抗野球において和光市(本田技研)が優勝	埼玉で国体開催
	2002	14	新倉橋再建	
	2005	17	総合福祉会館(ゆめあい和光)開館	
	2006	18	市指定文化財旧富岡家住宅移築復元 (新倉ふるさと民家園開園)	
	2007	19	総合体育館オープン	

～人と歴史が響き合う創造のまちに～

市の文化基本方針



解体以前の「長泉」の酒蔵

市域には豊富な地下水があり、酒造りにも適し、「長泉」は江戸時代から醸造され、明治10年に西本村に移ったという。辛口の地酒で評判をとり、遠く国分寺や調布まで販売されていたが、太平洋戦争のため米が入手しづらく廃業した。現在、国産レンガ造りの煙突が名残をとどめている。



新河岸川を上下した早船の引札(広告)
明治43年(1910)

上新倉村の新倉河岸は、江戸時代末期から昭和20年代まで、船が発着していた。



大正初め頃の地福寺



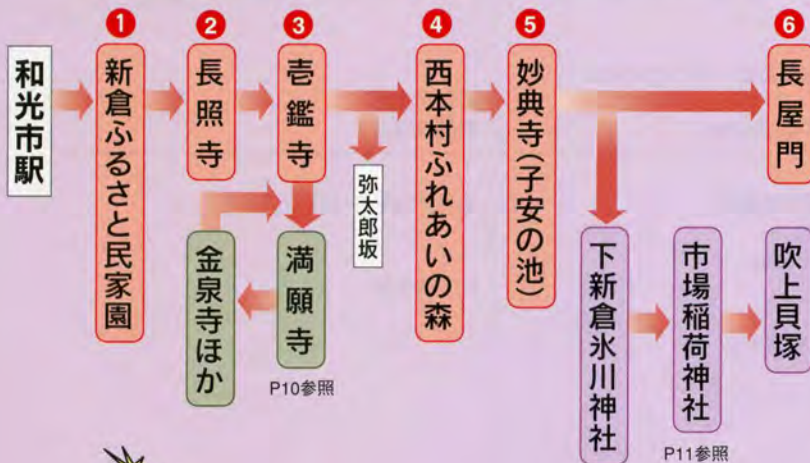
昭和36年頃の白子宿



現在(平成20年)の白子宿

〔北コース〕

坂のまち、新倉を味わう



①新倉ふるさと民家園

敷地2,000㎡(約600坪)の民家園の中心は茅葺屋根の旧富岡家住宅(推定300年前の建築物)で市の指定文化財。ふるさと四季折々の暮らしが紹介される。主屋のいりには火が入り、農作業や懐かしい昔の遊びも体験できる。園内の斜面にはヒロハアマネや山野草が咲き、湧き水の溜まる池にはメダカ、フナが生息している。



②光明山長照寺(真言宗)

江戸時代以前に建てられたとされるが、創立時期は定かではない。墓地には、寛文3年(1663)の銘のある市内でもっとも古い地藏菩薩像や、寺子屋を開いていた上原氏の筆塚などがある。境内の大きいようは、市の天然記念物に指定されている。

朝霞市



③ 台月山寺鑑寺 (曹洞宗)

江戸時代の寛永年間(1624～1643)に開かれた寺で、開基は下新倉村領主の旗本酒井孝岐守忠重である。忠重の墓は寺内の墓地にある五輪塔で、市の有形文化財に指定されている。法名「松巖院殿台月一鑑大居士」が刻まれているが、これが寺の山号・寺号の由来となった。

④ 西本村ふれあいの森

明治から昭和18年まで、「長泉」の銘柄で知られた酒を製造していた柳下家の屋敷林。北風から屋敷をまもる雑木林の様子をしのぶことができる。



⑥ 長光山妙典寺 (日蓮宗)

子安の池

創建は、鎌倉時代の弘安年間(1278～1287)で、領主の墨田五郎時光の開基と伝えられている。

当山には日蓮にまつわる伝説が残されている。子安の池の伝説と日蓮手植の柳の伝説(P12,コラム参照)である。子安の池は、文政4年(1821)に奉納された大絵馬にもその絵が描かれており、安産の霊水として知られた。

⑥ 長屋門

江戸時代は身分の制限が厳しかったため、武士以外に門を構えられたのは、名主など限られた階層だけだった。武家では長屋門部分に門番を住ませたが、農家では納屋にしたり、隠居部屋や下男部屋に使った。



正徳年間(1711～1716)に建てられた下新倉名主の下家の長屋門である。外観はほぼ左右同じだが、向かって右側は味噌部屋や道具入れに使い、左側だけが住めるようになっていた。

⑦ 吹上観音堂・福田山東明寺 (臨済宗)

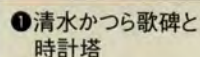
秩父三十四ヵ所の観音霊場や岩船観音などと肩をならべた観音霊場として、江戸市中からも訪れる人が多かった。



1 : 10,000



赤塚城址・赤塚溜池公園



凡例

- コンビニ
- 郵便局
- 交番・派出所
- バス停 市内循環バス
- バス停 民間バス

清水かつら歌碑と時計塔

和光の風土をこよなく愛した童謡詩人清水かつらの生誕100年を記念して建てられた。時計塔から「みどりのそよ風」(8:00)、『靴が鳴る』(12:00)、『叱られて』(17:00)のメロディーが流れる。

主要なランドマークと施設:

- 清水かつら歌碑
- 時計塔
- 和光駅前保育園
- 和光市駅
- 丸山台一丁目
- 丸山台二丁目
- 丸山台三丁目
- 中央公民館
- 武蔵御嶽神社
- 馬頭観音
- 代官屋敷
- 理化学研究所
- 和光南養護学校
- 和光養護学校
- 和光国際高等学校
- 総合児童センター
- 広沢小学校
- 保健センター
- 第二中学校
- 市民文化センター
- 市役所
- 西大和団地
- 税務大学校
- 国立保健医療科学院
- 裁判所職員総合研修所
- 南公民館
- みなみ保育園
- 第三中学校
- 南地域センター
- 第五小学校
- 南児童館
- 子育て地蔵
- 中里さくら憩いの森
- 越後山橋入口
- 越後山橋
- 越後山憩いの森
- 稲荷山憩いの森
- 清水山憩いの森
- 別荘橋

交通線:

- 東武東上線
- 東京メトロ有楽町線
- 国道254号
- 京葉自動車道
- 和光線
- 新座線
- 荒川線
- 白子川

スケール: 1 : 10,000

距離目盛: 0, 100, 500m

- 1 : 10,000





③馬頭観音 (馬頭観世音)
くさやみ坂下の馬頭観音は東松山・上岡の像を模して、文化15年(1817)に建立された。



②引又道道標
川越街道と引又道との分岐点に道標として庚申塔が建てられている。「ひきまた」は新河岸川の船着場のある所(志木市)。集荷量も多く、買い物に出かける人が多かった。



⑥白子コミュニティセンター
(清水かつら・大石真展示室)



④代官屋敷



⑤馬頭観音
くさやみ坂上の馬頭観音は、和光市内最古のもの。寛文13年(1673)に造られた。

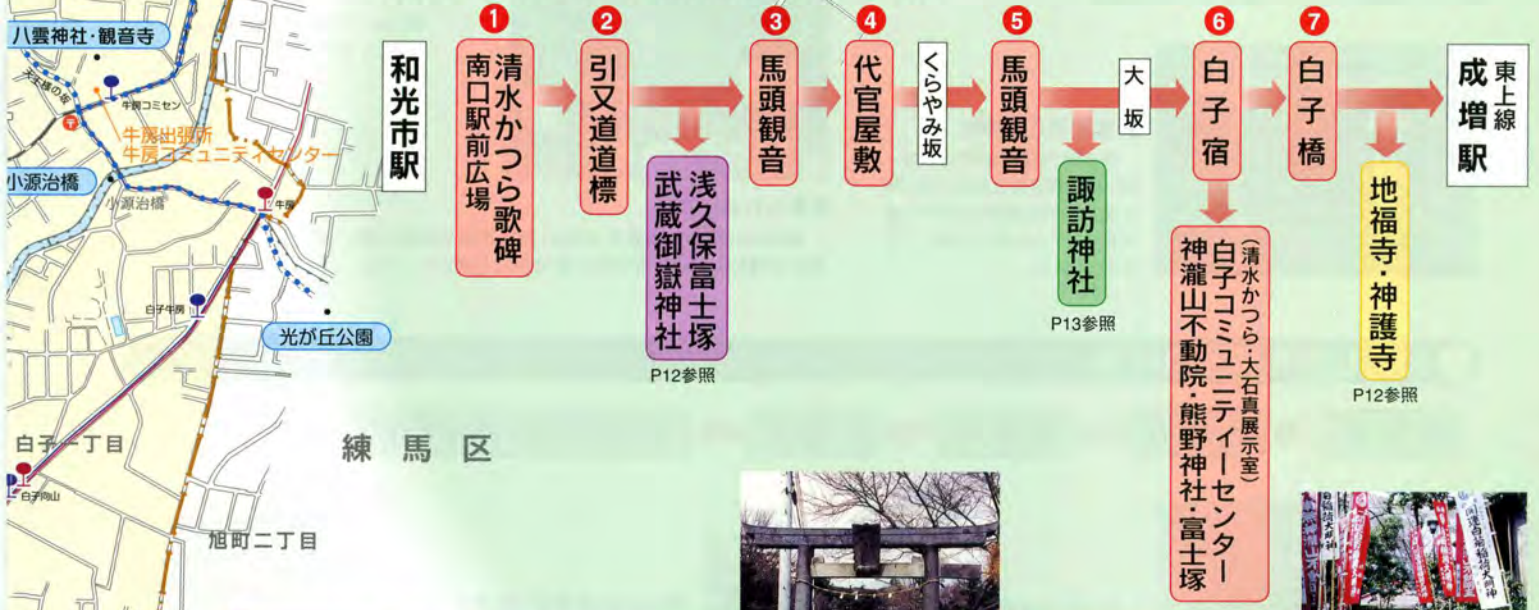


⑦白子橋
白子橋には、「靴が鳴る」の歌詞が記されたプレートが設置され、もとは大石真の生家跡(西谷医院わき)がある。



〔南コース〕

歴史の道、川越街道をたどる



⑥熊野神社
白子村の氏神様として栄えた神社。境内に富士塚がある。明治政府による日本最初の養魚場が造られたのもここである。



⑥神龍山不動院
言い伝えによると、平安時代の高僧慈覚大師円仁が順錫中、この地の自然湧水を見て、清涼の靈気がたちこめているのを感じて一字を建てたという。



● 湧き水コース

和光市駅北口 → 柿ノ木坂湧水公園 → 強清水 → 越戸ふれあいの森 → 越戸川の上流



柿ノ木坂湧水公園

東京外環自動車道工事にともない湧水地が公園として整備された。水遊びができるように設計されている。



強清水（こわしみず）

新倉1-7地点に噴出していた湧水を強清水と呼んでいたが、現在は越戸川に流れる落ちる地点を指している。孝行息子が老親のために汲んで飲ませると酒となり自身が飲むにはただの水だったことから「子は清水」と呼ぶようになったという。県土木事務所によって「せせらぎの池の堤」が造られている。



越戸川
最上流地点

越戸川に沿って上流に向かうと、有楽町線車庫敷地に「七つ釜」と呼んだ湧水池の跡の凹みを見ることができる。さらに進んで旧川越街道まで水の音、鳥の声を楽しみながらの散策コースが続く。

● ハケの道コース

新倉ふるさと民家園 → 漆台の洗い場と滝不動 → 足洗地蔵 → 東林寺
赤池親水公園 ← 新倉氷川八幡神社 ← 新倉ふれあいの森



漆台の洗い場と滝不動

豊富な湧水を溜めた共同の洗い場で、出荷のため大根人参など野菜の泥を落とした。傍らに、江戸後期幕府発行の『新編武蔵風土記稿』に滝不動の名で掲載されている不動明王のお堂がある。



足洗地蔵堂

坐像1.5m、片足を地につけて坐る地蔵菩薩を祀る。谷中川対岸の峯から見て向かいの側にあたることから「向かいの地蔵」とも。村人を助けて足を洗う暇もなく足洗わぬ地蔵様ともいわれた。境内に市内最古の（寛文6年（1666））の石造りの地蔵尊がある。



医王山東林寺（真言宗）

通称、峯の薬師といわれ、いろいろな病氣、特に眼病に霊験あらたかとされて、近在にその名を知られてきた。開山は、江戸時代の元禄8年（1695）以前といわれている。



新倉氷川八幡神社

鎌倉時代弘安年間（1278～88）に創建されたと伝わる。神社境内の森は昭和58年から埼玉県より「ふるさと森」に指定されている。



新倉ふれあいの森

宮坂の斜面林に生息する植物、特に絶滅危惧種の野草の保護を目指し、平成18年に整地され、公開されている。

● いにしえを偲ぶコース

長照寺 → 壺鑑寺 → 満願寺 → 金泉寺 → 午王山特別緑地保全地区



萬政山満願寺（真言宗）

弥生時代後期の住居跡が発見された午王山の南麓にある。明治7年、上新倉村の「新倉学校」が開かれた。



祥光山金泉禅寺（臨済宗）

臨済宗の高僧夢窓国師が貞和元年（1345）に開いたと寺の古記録にある。浅野内匠頭らが天下泰平、武運長久、現世安穩のため本尊を修復した棟札が現存している。

午王山特別緑地保全地区（午王山斜面）

午王山は、武蔵野台地から切り離された独立丘で、旧石器時代から中世まで人の住んだ跡が遺されている。平成19年開発の進む山のうち斜面林の保全に向けて特別緑地地区が設定された。



● 荒川の眺望を楽しむコース(春は特におすすめ)

アグリパーク → 桜並木 → 新倉橋 → 荒川土手 → 彩湖自然学習センター



アグリパーク

かつて「新倉田圃」と呼ばれた田圃地帯の一部を市民農園として市民に貸し出している。



サクラ並木

荒川の氾濫から水田を守るため、江戸時代初期、上・下新座村の領主であった板倉・酒井両氏によって構築された土手(堤防)にサクラが植えられ、サクラの並木となっている。



荒川土手

明治43年荒川大氾濫を機に荒川流路は直線となった。屈曲部にあった和光市雑丹袋(ぞうたんぶくろ)は現在彩湖の一部となっている。北に幸魂大橋、東には関東平野の向こうに筑波山が見える。

新倉橋

明治時代まで屈曲して流れていた新河岸川と荒川を直線化して平行に流すようになって新倉橋が架けられた。市内から荒川河川敷へ通じる橋は新倉橋と芝宮橋の2橋である。

【参考】彩湖自然学習センター

幸魂大橋の戸田市側に彩湖の自然に関する情報が集められている。野鳥観察もできる。彩湖の周辺に親水ゾーン、自然保全ゾーン、野外ゾーンが整備されている。

● 旧跡をたどるコース1

下新倉氷川八幡神社・東輝学校碑 → 市場(豊川)稲荷神社 → 延命地蔵 → 吹上貝塚



東輝学校跡碑

明治19(1886)年に上・下新倉と白子3か村が連合して東輝尋常小学校が開校した。ガラス戸の入った新校舎は、当時珍しくて見学者が多かったという。



市場稲荷神社

創立年時はよくわからないが、古くから村民の信仰を集めてきた稲荷社である。近辺から12万枚の古銭が発掘されており、あるいは中世、「市場」に関する神社とも考えられる。



延命地蔵

「文政3(1820)年彼岸中」願主・世話人として常八妻・重次郎母など、夫や子どもを亡くした女性が供養のために建てたことがわかる。その4年前江戸に疫病が大流行している。



吹上貝塚

昭和34年の発掘で、縄文中期から(今から4~5千年前)の住居跡と土器石器、貝殻・魚・獣の骨が出土した。



下新倉氷川八幡神社

平安時代末期に源義家の弟新羅三郎義光が戦勝祈願したと伝えられる。秋祭りにほささら獅子舞が奉納される。

● 旧跡をたどるコース2

東明寺・吹上観音 → 水行場跡 → 赤塚城址・赤塚溜池公園



吹上観音 百庚申・力石

吹上観音境内に、庚申塔が2列に並び、「百庚申」と呼ばれている。全国的に珍しいもので、見事な親庚申塔と134基の子庚申塔からなっている。宝暦11(1761)年から明治35年(1902)までの年代が刻まれている。

境内にある力石(P14参照)は、重さ60kgから200kgを越すものまで。優勝者の名前を切り付けた石もある。



水行場跡

江戸時代、白子川に架かる正覚院橋の袂に水垢離の行場があり、相模国大山や駿河国富士山参詣に旅立つ者が身を清めた。嘉永元(1848)年の敷石建立供養等が建っている。

【参考】赤塚城址・赤塚溜池公園

成増橋を渡ると東京都板橋区に入る。台地に沿って峠の道を行くと中世武蔵千葉氏が支配した赤塚城と堀を兼ねた溜め池のある公園に出る。

そのわきには板橋区立郷土資料館、同美術館、さらに足を進めると同植物園、乗蓮寺・東京大仏、松月院を巡ることができる。

朧(うけら)庵・歌碑



朧(うけら)庵

朧庵は、江戸時代中期に上新倉村の鈴木家が墓守堂として建てた。文化・文政期(1804~1829)、当主は江戸の文人と交流するほどの人で、狂歌師鹿都部真顔や大田南畝(蜀山人)などが訪れたという。今の建物は平成元年(1989)に再建されたものである。

うけら庵という名は、このあたりが、昔うけらの花が多く咲き、うけら野と言われていたほどの土地だったことに因んでつけられたといわれる。

武蔵御嶽神社・富士塚



武蔵御嶽神社・富士塚

青梅市の御岳山にあり、火難盗難退治の守護神を祀る武蔵御嶽神社参拝のために市域各地に御嶽代参講がつくられた。おれは、各家々の入り口に貼ったり村の道端にさし立て、災いが侵入しないことを願った。富士塚は富士山を表し、頂上に浅間神社を祀る。参道には登拝の記念碑が並んでいる。



清水かつらの足跡をたどるコース

白子橋 → 清水かつら生誕百年碑 → 白子宿由来碑 → 地福寺 → 神護寺

東武東上線 成増駅(清水かつら歌碑) ← 白子小学校(城山坂)



清水かつら生誕百年碑

平成10年、生誕100年を記念して碑が建てられた。かつらが昭和12年から亡くなるまで白子宿近くに住んだことによる。



瑞応山地蔵院地福寺(天台宗)

縁起によると、平安時代天台座主尊恵僧正が、地藏菩薩のお告げにより多くの浄財を集めて建立した。境内に祀る「お石神様」は咳や喘息の効験著しいと評判であったという。境内には筆塚(P14)も。寺の近くに関東大震災後から昭和12年まで清水かつらが住んだ家があった。



筆塚



成田山神護寺(真言宗)

明治中期に、成田山新勝寺から勧請した不動明王を祀る。「白子不動」とも呼ばれる。



白子宿由来碑

市制20周年を記念して、平成2年に整備された白子川遊歩道に白子宿由来碑が立つ。川越街道白子宿の繁栄が、天正15年(1587)の楽市に始まると解説している。



白子小学校

明治7年に開校。同校の愛唱歌は清水かつら作詞の『みどりのそよ風』。かつて、かつらは白子小学校で詩を指導したことがある。校門わきにはその碑が立つ。

百階段コース

東 埼 橋 → 牛房通 → 観音寺・八雲神社 → 小源治橋 → 光が丘公園

百 階 段



百階段(牛房通よりの眺め)

台地上から東上線成増駅を最短距離で結ぶ急階段で、「坂のまち和光」を象徴する。



松竹山観音寺(天台宗)

聖観音と地藏菩薩を祀る。観音像の開帳は、午年の4月18日と決まっている。境内に、庚申塔、地藏、普門品供養塔、巡礼供養塔など。



八雲神社

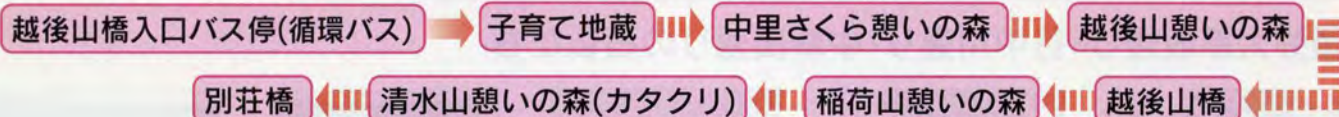
祇園精舎の守護神とされる牛頭天王を祀る。疫病や虫害を除する神格として信仰された。境内に、サクラの古木が植わっている。



小源治橋

白子牛房の富沢小源治が、自宅の前の道は東都より平林寺に参る人の往来も多く、白子川に架してある板橋では永久使用できないことを嘆き、石橋とし、道にも石を敷き詰めて整備した。天保2年(1831)のことである。

● 白子川 桜・カタクリコース



市のはずれ(都県境)を流れる白子川の両岸は、斜面林も残っており、練馬区側にも散歩道としてオススメは多い。特に、越後山付近の川桜の見事な風情は和光市民文化センター(サンアゼリア)の緞帳「三栖右嗣(みすゆうじ)画」に描かれている。



子育て地蔵



越後山橋



清水山憩いの森



別荘橋

● 国立機関たてものコース



理化学研究所
(西門から)



税務大学校

税のしくみや歴史がわかる
租税資料館が併設されている。
(9:30~16:30・土日休)



司法研修所



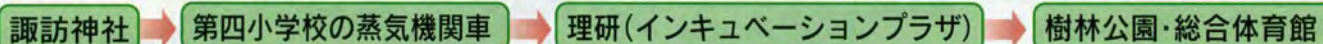
国立保健医療科学院



裁判所職員総合研修所



● 諏訪原から桃手通りコース



諏訪神社

神社の言い伝えでは平安時代の終わりに土地の人が信濃諏訪大明神を勧請したとされる古い神社。なすを供え、お下がりを食べると病気が治り、悪病除けと子育ての神様として信仰されてきた。



第四小学校の蒸気機関車

石炭や水を機関車の後ろ部分に積んで走るのでタンク機関車とも呼ばれたC12型の小型蒸気機関車。昭和9年に製造された。

43年当時第四小学校PTA会長をはじめとする役員の熱意が実り、「遊びながら学べる」本物の機関車を運輸省から貸し渡された。

同型車は、大井川鉄道やベトナムなどで現役活躍している。



理研(インキュベーションプラザ)

産業技術の開発や新事業の展開を目指すベンチャー企業や個人事業者を支援するために、中小企業基盤整備機構と埼玉県・和光市・理研が連携して設置した施設。平成20年1月にオープンした。



総合体育館

公園の一角(東・外環寄り)にある総合体育館(H19春オープン)は環境も考慮した施設で、各種スポーツイベントの会場、エクササイズカルチャー教室も多種を誇る。



樹林公園

武蔵野の雑木林の面影を残す多種多様な樹林に混ざって四季の草花が散歩道を彩る、県立和光樹林公園。ジョギング、小遠足など、市民の憩いの場となっている。

多目的広場南側道路をはさんで、東京都立大泉中央公園続く広大な敷地を囲む桜並木は花の季節には回廊となる。

いにしえ人の願いが込められた石仏たちに出会う

■弥太郎坂通り・谷中川通り・中新田通りの石仏たち



弥太郎坂下の
庚申塔

下新倉4-60
享保9年(1724)
下新倉村の庚申講
中15人の建立



弥太郎坂上の
馬頭観音

下新倉4-1
延享元年(1744)
講中25人の建立



弥太郎坂上の
庚申塔

下新倉4-66
天明6年(1786)
下新倉村仏の木講
中25人の建立



中新田坂下の
地藏

下新倉3-7
享保2年(1717)
下新倉村中新田の
念仏衆24人



中新田坂下の
庚申塔

下新倉3-18
講中17人によって建
立された

庚申講は、60日に一度めぐってくる庚申の日にその夜は眠らずに過ぎて健康長寿を願う信仰で、主尊を江戸時代中期から青面金剛夜叉(しょうめんこんごうやしや)とする。その姿は、顔が三面憤怒の相で、手が六臂、足は天の邪鬼を踏み付ける。塔の台石に見ざる・言わざる・聞かざるの三猿が陽刻されている。

馬頭観音は、頭上に馬の頭を戴く観世音で、馬の供養や無病息災の願いをこめて造立された。初期の頃は交通の発達にともない馬持ち中といった講集団によって造立されたが、時代が下るにつれて死んだ馬の供養の目的で個人的に造立するものが多くなる。

「子安の池伝説」とは? (P7参照)

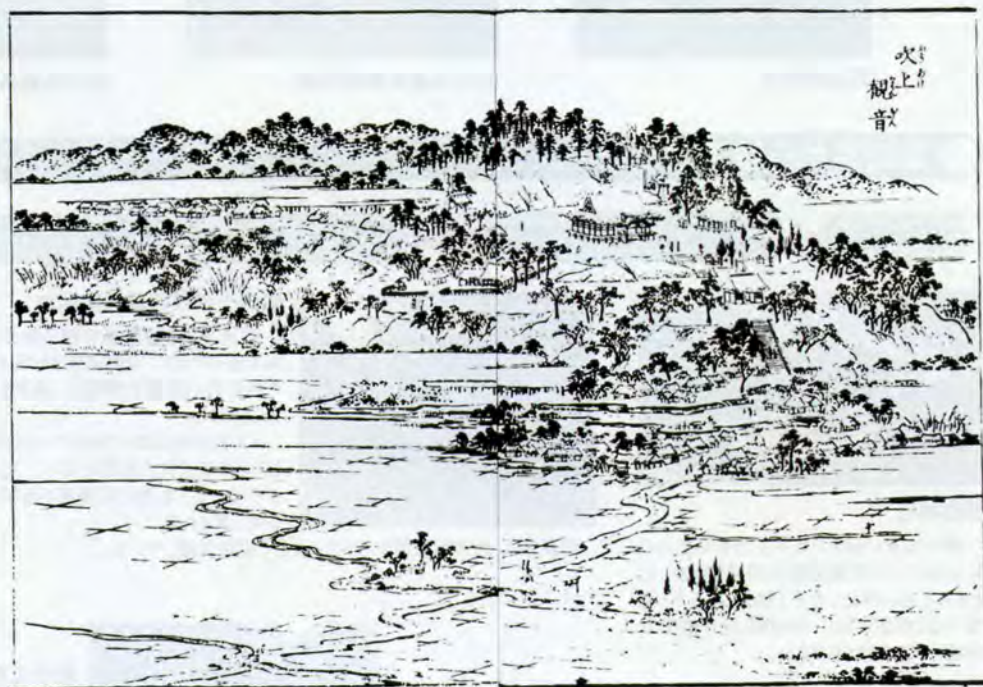
昔、日蓮上人がこの地方を行脚していた頃、墨田五郎時光という領主の奥方が、難産で非常に苦しんでいた。上人が安産を祈り、一本の楊枝をもって加持すると、たちまちここから優れた清水が湧き出した。その水を汲んで口にそそぎ、御符をいただかせたら、立派な男の子が生まれた。その池のかたわらにある古木の柳の木は、日蓮上人の楊枝を挿したのが芽をふいて成長したものだと伝えられている。



江戸名所図会 (吹上観音)

天保7年(1836)刊行の江戸の地誌。編者は神田稚子町名主斎藤幸雄、幸孝、幸成の3代。絵は、長谷川雪旦。実調査と古書の引用と考証をふまえた記述、雪旦の精緻な描写で知られる。

江戸市民の訪れる名所として吹上観音もとりあげられている。



Q&A

筆塚ってなんですか?

「使い古した筆を埋めて築いた塚のことですが、江戸時代に寺子屋や塾を開いた師匠の供養のためにも建てられました。」

力石ってなんですか?

「江戸時代から明治時代にかけて使われた力試し用の石です。個人が体を鍛えるために行ったり、集団で互いの力を競いあったりしました。神社の祭りで出し物の一つとして力試しがなされることもありました。」

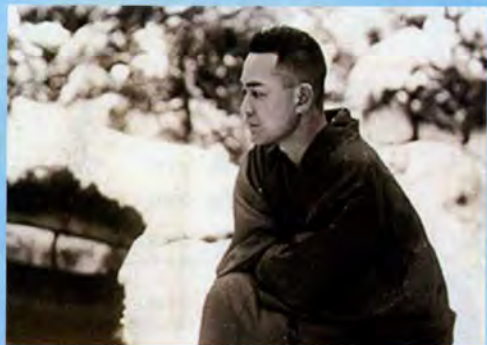
名作を育むまち 和光

♪ 童謡詩人 清水かつら
1898 (明治31) 年～1951 (昭和26) 年

「靴が鳴る」「叱られて」「雀の学校」などを作詞した清水かつらは深川に生まれた。本郷に転居し小学校へ入学。商業学校を修後は好きな文学の道を志して出版社に入社する。鹿島鳴秋らと「少女号」の編集に携わったかわら、俳諧の岡野知十にも師事。

関東大震災 (大正12年) で継母実家がある新倉村 (現・和光市新倉) へ避難した後、白子村 (同・白子) に移る。地元の白子小学校や花岡学院 (現・光が丘公園の西部) で詩や作文を教え、戦後は大石真らの「白子文化会」では会長をして、指導者としても活躍しながら、白子の歴史・風俗・方言などを調べた「白子ノート」を書き残している。

詩人としてのかつらは子どもたちの幸せを祈り、家族の絆を大切に願って、「叱られて」や「あした」を作り、白子や成増の田園風景をうたい込んだ「みどりのそよ風」を作詞している。純真な子どもと武蔵野の自然をこよなく愛して生涯240曲を超える童謡を作った。



かつらが編集に携った本



「白子文化会」



和光市で作った絵はがき



幼年童話
「さとのじてん」

中編娯楽小説
「チョコレート戦争」



「大石真児童文学全集」
(全16巻)

児童文学者 大石 真 1925 (大正14) 年～1990 (平成2) 年



日本を代表する児童文学者の大石真は白子村 (現・和光市白子) に生まれた。

早稲田大学在学中に早大童話会に入会し坪田譲治に師事、作家への道を歩みだす。戦後は白子の子どもを元気づけようと、友人らと「白子文化会」を作ったり、一年間だけ地元の大和中学校の代用教員をしたりしている。早大卒業後は小峰書店で編集の仕事しながら数々の作品を書いた。

結婚後に夫人の実家がある昭島市へ転居している。退職してからは作家活動に専念しながら、後進を育てるため「大石教室」を開き、

各地で講演活動も行った。ジャンルを越えて執筆した作品は200余りとなる。白子の原風景や学校を舞台にした「風信器」「チョコレート戦争」など多くの作品は、子どもの家庭や人間関係を通して社会に目覚めていく姿が描かれ、夢や希望、友情や勇気を大切にして成長して欲しいという真の願いが込められている。

和光市全図

面積：11.04km²
 経度：東経139度36分21秒
 緯度：北緯35度46分52秒

マークについて

- サクラ イチョウ
- ケヤキ
- 斜面林
- 湧水地と湧水ポイント
- 湧水地と(個人宅等)



- 編集・発行／和光市教育委員会生涯学習課
 〒351-0192 埼玉県和光市広沢1-5 TEL048-464-1111
- 印刷／平成21年3月31日／昇寿チャート株式会社
- 協力／平成19年度 和光市民大学「和光学への勧誘」受講生有志